

【令和 8 年度～令和 12 年度】



第 4 次加須市生涯学習推進計画



学びから未来へつなぐ人づくり

令和 8 年 3 月
加須市教育委員会

はじめに

「人生 100 年時代」と言われる昨今、社会のあり方やライフスタイルが多様化する中で、生涯にわたって学び続けることの重要性はますます高まっています。学びは、新しい知識や技術を得るだけでなく、日々の暮らしに潤いを与え、心豊かな人生を送るための大きな原動力となります。

このたび、本市における生涯学習施策の新たな指針となる「第 4 次加須市生涯学習推進計画」を策定いたしました。

本計画では、基本目標に「学びから未来へつなぐ人づくり」を掲げました。

これは、市民の皆様一人ひとりが自発的に学ぶ喜びを味わい、そこで得た知識や経験、そして人とのつながりを、地域社会や次世代へと還元していくことを目指すものです。

加須市が誇る豊かな自然や伝統文化を未来へ引き継ぎ、誰もがいきいきと暮らせるまちを創っていくのは、他でもない「人」の力です。本市といたしましては、こどもから高齢者まで、すべての市民の皆様が「いつでも、どこでも、楽しく」学び、活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。

令和 8 年 3 月

加須市教育委員会 教育長 **小野田誠**

目 次

第1章 計画策定に当たって	1
1 計画策定の背景	1
2 計画策定の趣旨	1
3 計画の位置づけ	2
4 計画の期間	2
5 生涯学習を取り巻く国・県の動向	3
第2章 本市の生涯学習の現状と課題	4
1 生涯学習に関する市民意識調査の結果	4
2 第3次計画の達成状況	18
第3章 生涯学習を推進する上での今後の課題	19
1 生涯学習活動の推進と施設の充実	19
2 芸術文化の振興	20
3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成	20
4 読書活動の推進	20
5 家庭や地域で健やかなこどもを育むための取組の推進	21
第4章 基本理念と基本目標	22
第5章 施策の体系	26
施策の体系図	
第6章 基本目標の実現に向けた施策	27
基本目標1 生涯学習活動の推進と施設の充実	27
施策1 生涯学習機会の充実	27
施策2 生涯学習環境の整備・充実	29
基本目標2 芸術文化の振興	31
施策1 芸術文化活動の振興	31
施策2 「加須の偉人」の顕彰	32
基本目標3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成	32
施策1 文化財の積極的な保存・活用の推進	32
基本目標4 読書活動の推進	34
施策1 こども読書活動の推進	34
施策2 市民の読書活動の推進	34
基本目標5 家庭や地域で健やかなこどもを育むための取組の推進	35
施策1 家庭教育の支援	35
施策2 青少年の健全育成	36
施策3 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進	36
施策4 人権教育の推進	37
第7章 計画の推進・進行管理体制	38

第1章 計画策定に当たって

1 計画策定の背景

現在の生涯学習を取り巻く環境は、人口減少と少子高齢化、価値観の多様化、ICTの急速な進展など、複合的な変化の中にあります。さらに、社会的な孤立や、デジタルデバイド等、新たな問題が顕在化しています。こうした状況下で、生涯学習には個人の生きがいや健康、自己実現を支えるだけでなく、学びを通じた人と人とのつながりを生むとともに、地域課題の解決や地域力の向上に資する役割が求められています。また、国の政策動向にもICT活用やデジタルデバイドの解消、学びと活動の循環・拡大、リカレント教育の推進が示されています。このようなことから、老若男女を問わず誰一人取り残さない公正な学びの機会を広げ、個人の学びの充実と地域のつながりの創出を促進する必要があると捉えています。

2 計画策定の趣旨

本市では、生涯学習の推進を図るため、「豊かな心を育む生涯学習による生きがいづくり」を基本理念に、平成24年「第1次加須市生涯学習推進計画（平成24～28年度）」を策定しました。

その後、「加須市人づくり宣言～教育大綱～」及び「第1次加須市人づくりプラン」を踏まえ、平成29年に「第2次加須市生涯学習推進計画（平成29～令和2年度）」を策定し、生涯学習関連施策を推進してきました。

そして、令和3年、新たに策定した「第2次加須市総合振興計画」及び「第2次加須市人づくりプラン」を踏まえ、「第3次加須市生涯学習推進計画（令和3～7年度）」を策定し、市民一人ひとりの生涯にわたる学習を支え、その学習成果を活かせる人づくりを図るため、10年・20年先の未来へつなぐ生涯学習の人づくりを目指して『学びから未来へつなぐ人づくり』を基本理念に生涯学習事業を推進してきました。

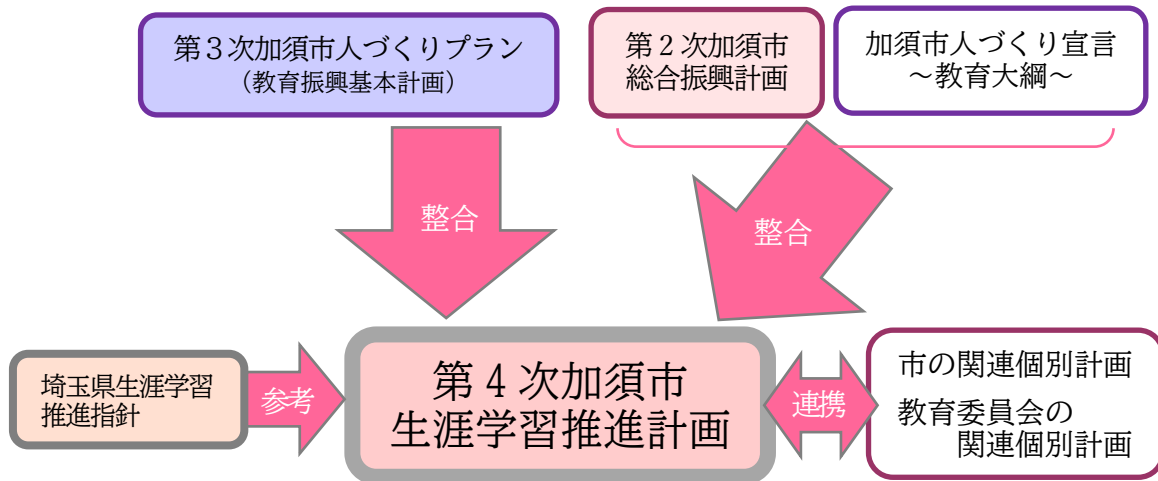
社会情勢の変化や個人の価値観や学習ニーズの多様化を鑑み、誰もが学び続けられる環境を整備し、社会全体の幸せでもあるウェルビーイングを実現するため、「加須市総合振興計画」及び「第3次加須市人づくりプラン」を踏まえて、今後の5年間にわたる生涯学習の施策の方向性と展開を示す新たな「第4次加須市生涯学習推進計画」（令和8年度～12年度）を策定します。

デジタルデバイド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。

ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的によい状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的によい状態であることを含む包括的な概念。

3 計画の位置づけ

本計画は、「第2次加須市総合振興計画」の部門計画として、「第3次加須市人づくりプラン」を踏まえて関連する各種計画との整合性を図りつつ策定します。



4 計画の期間

本計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間を計画期間とします。

計画	年度											
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
第2次総合振興計画後期基本計画	→											
加須市人づくり宣言～教育大綱～	→											
第3次加須市人づくりプラン	→											
第4次加須市生涯学習推進計画	→											

5 生涯学習を取り巻く国・県の動向

(1) 国の動向

平成 18 年 12 月に教育基本法が改正され、生涯学習の理念として「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現（第 3 条）」が定められました。併せて「家庭教育」「社会教育」「学校・家庭・地域の連携」等の規定が整備され、生涯学習推進の制度的基盤が強化されました。

平成 20 年には社会教育法、図書館法、博物館法が一部改正され、国・地方公共団体が生涯学習の振興に果たす役割の充実が図られ、同年 7 月には「教育振興基本計画」が策定されました。

その後、平成 30 年の第 3 期教育振興基本計画では、基本方針の一つに「生涯学び、活躍できる環境」が掲げられ、「人生 100 年時代」に向け、誰もが生涯にわたり学び続け、その成果を生かして活躍できるように「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境」を整備することが重要であるとされました。

さらに、教育政策の目標として「人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進」「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」「社会人の学び直しの推進」「障がい者の生涯学習の推進」が示されました。

「第 12 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（令和 6 年 6 月）においては、第 11 期分科会の議論と第 4 期教育振興基本計画を踏まえ、「生涯学び続ける社会の実現」と「ウェルビーイング」を目指す取組がまとめられました。併せて、デジタルデバイド解消などの社会的な課題への対応に、社会教育人材が地域コミュニティを支える役割への期待などが示されました。

(2) 県の動向

埼玉県においては、平成 25 年 3 月に「埼玉県 5 か年計画」を踏まえた「埼玉県教育振興基本計画」との整合を図り、生涯学習の基本的考え方と方向性を示す「埼玉県生涯学習推進指針」が初めて策定されました。「10 年先を見据えた生涯学習社会の実現を目指す」として策定されましたが、この間に新型コロナウイルス感染症の世界的流行や、気候変動に伴う激甚災害、デジタル技術の急速な進展など、策定時点では予期できなかった変化や課題が生じ、社会を取り巻く環境が大きく変化しました。

そこで、このような社会の変化に対応し、誰もが自分らしく学ぶことができる生涯学習社会の実現を目指すため、令和 5 年 3 月に「埼玉県生涯学習推進指針（改訂版）」が策定されました。ここには、人口減少、少子高齢化、デジタル技術の進展への対応、相互理解の推進を県の課題と捉え、個人の豊かな生活と多様な地域社会の共創につなげる支援の在り方として、「人づくりを支える」「つながりづくりを支える」「地域づくりを支える」の三つの柱が示されました。

第2章 本市の生涯学習の現状と課題

1 生涯学習に関する市民意識調査の結果

■ 市民意識調査の方法

「加須市の生涯学習活動に関する調査」を行い、回答をグラフ化したものです。

調査期間：令和6年10月～11月

調査対象：18歳以上80歳以下の市民

対象数：1,000人

回答者：355人（回収率35.5%）

回答方法：郵送

■ 調査項目

	項目	前回調査
問1	余暇時間の過ごし方と生涯学習について	
①	余暇時間の過ごし方	○
②	生涯学習の目的について	○
③	生涯学習に取り組むにあたっての学習方法について	○
④	生涯学習の取り組み内容について	○
⑤	生涯学習を実践している場所について	○
問2	学習機会の提供について	
①	学習上の問題について	○
②	学習やセミナー・講座などに期待するものについて	○
問3	学習情報・学習相談について	
①	生涯学習に関する情報収集について	○
②	生涯学習に関する相談について	○
問4	学習成果について	
①	学習成果の活かし方について	○
問5	文化・学習センターやコミュニティセンターの利用について	
①	文化・学習センターやコミュニティセンターの利用について	○
②	芸術文化振興のための利用について	—

※文中に「前回」とあるのは、令和2年1月に実施した同様趣旨の調査結果です。

※端数調整の結果、回答の構成比の合計が100%にならない場合があります。

■ 調査項目

問1 余暇時間の過ごし方と生涯学習について

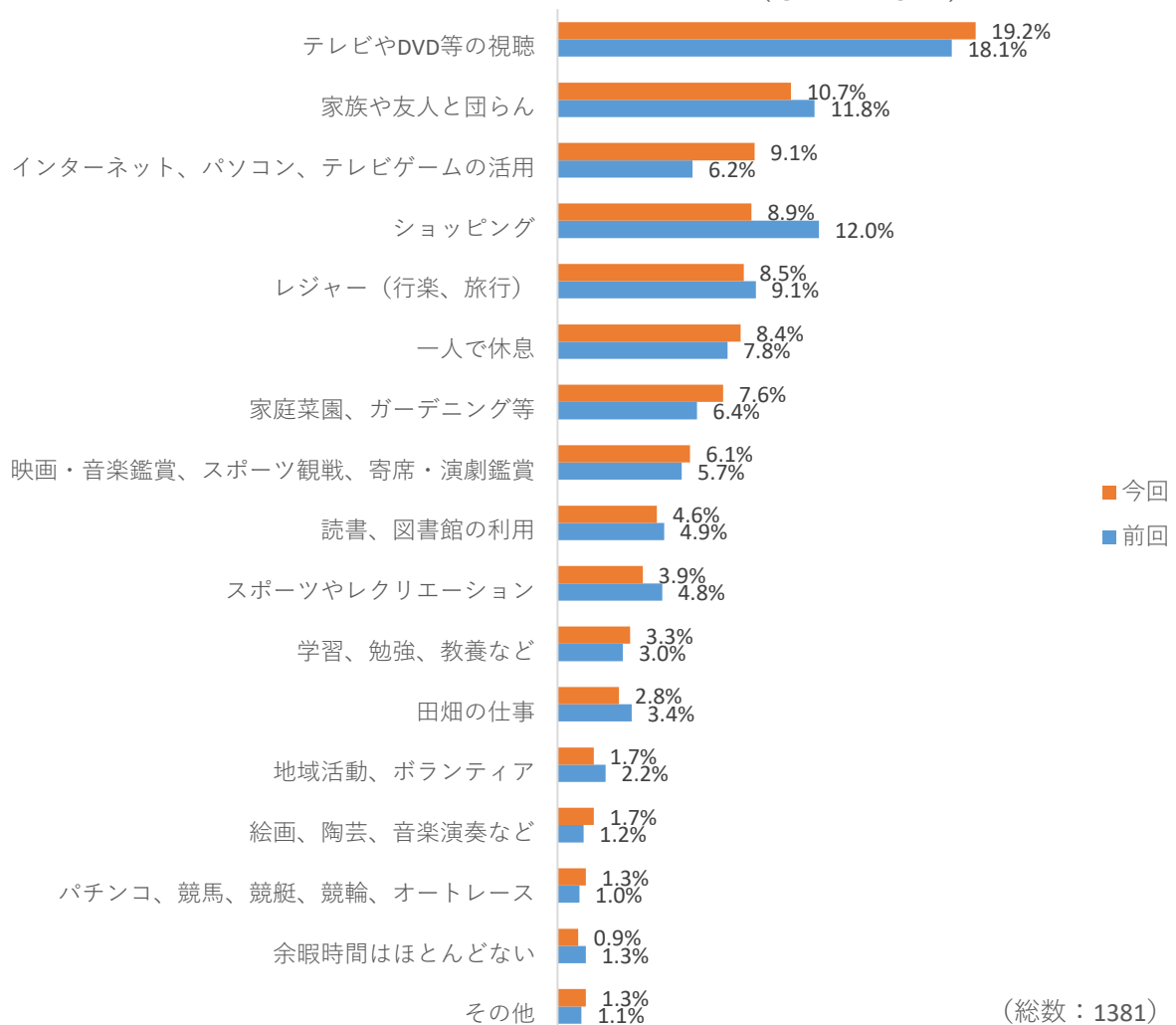
① 余暇時間の過ごし方

上位を占める「テレビやDVD等の視聴」、「インターネット、パソコン、テレビゲームの活用」は、前回に比べ割合が増え、インドアな傾向が強まっていることがわかります。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	テレビやDVD等の視聴	19.2%	1位	18.1%
2位	家族や友人と団らん	10.7%	3位	11.8%
3位	インターネット、パソコン、テレビゲームの活用	9.1%	7位	6.2%
4位	ショッピング	8.9%	2位	12.0%
5位	レジャー（行楽、旅行）	8.5%	4位	9.1%

あなたは、余暇時間をどのように過ごしていますか。

(○は5つまで)

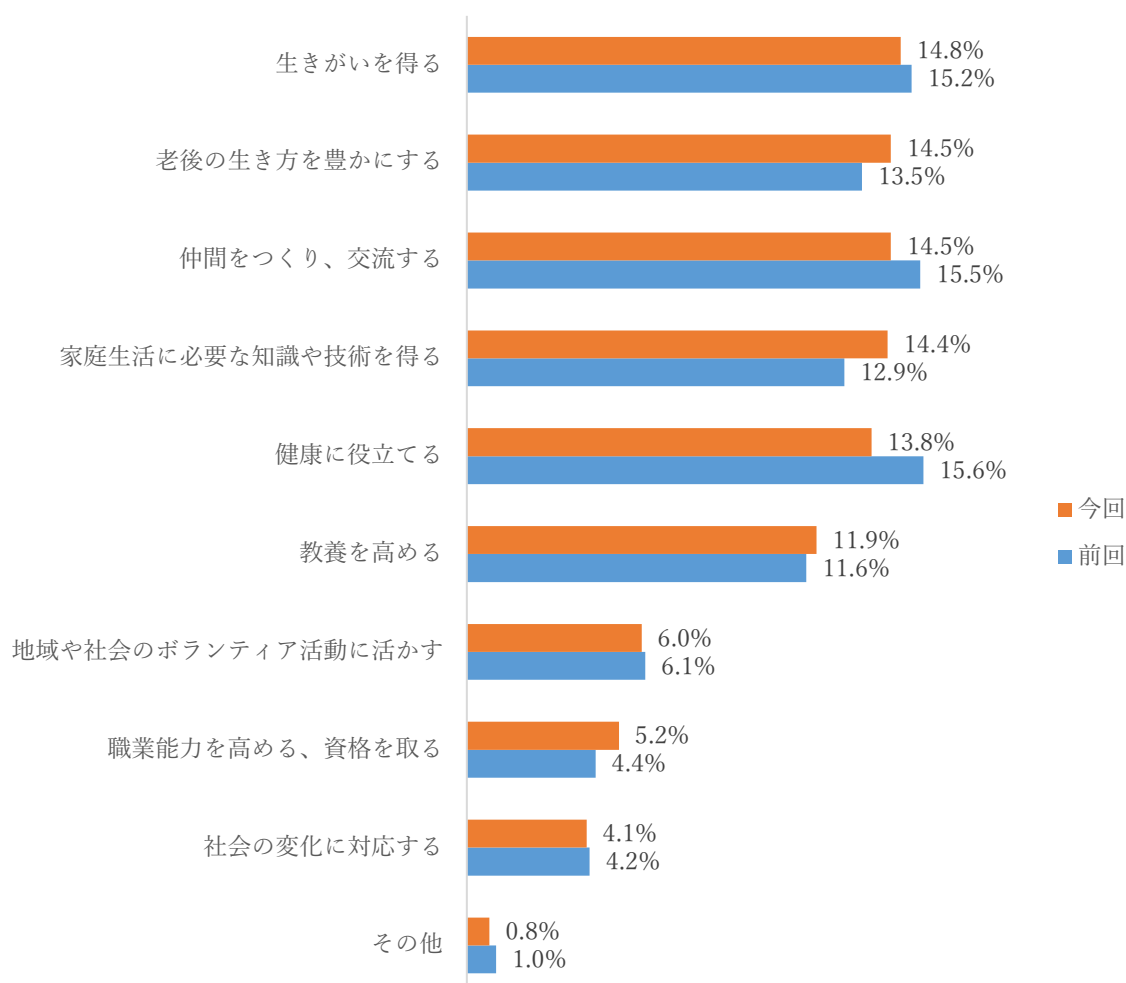


② 生涯学習の目的について

上位にほぼ差はありませんが、「生きがいを得る」、「老後の生き方を豊かにする」、「仲間をつくり、交流する」など、ウェルビーイングの概念が大きく表れていることがわかります。また、「職業能力を高める、資格を取る」、「教養を高める」などが微増しており、生涯学習に専門性を求めるニーズが見られます。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	生きがいを得る	14.8%	3位	15.2%
2位	老後の生き方を豊かにする	14.5%	4位	13.5%
2位	仲間をつくり、交流する	14.5%	2位	15.5%
4位	家庭生活に必要な知識や技術を得る	14.4%	5位	12.9%
5位	健康に役立てる	13.8%	1位	15.6%

あなたは、生涯学習の目的はどんなことだと思いますか。
(○は3つまで)



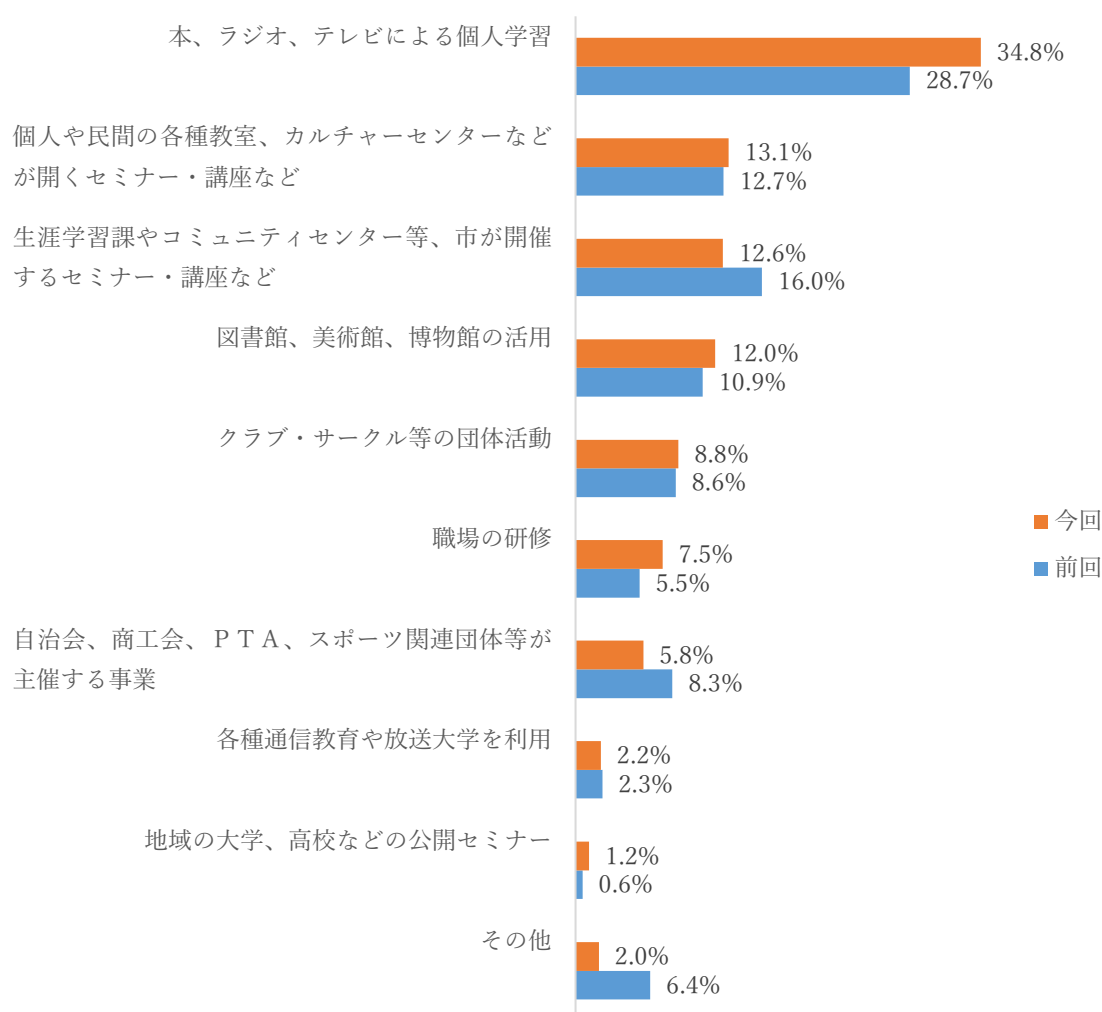
(総数：904)

③ 生涯学習に取り組むにあたっての学習方法について

「本、ラジオ、テレビによる個人学習」が前回同様最上位となり、個人で学習する人の割合が高いことがわかります。SNSの影響も個人学習の増加の一因と考えられます。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	本、ラジオ、テレビによる個人学習	34.8%	1位	28.7%
2位	個人や民間の各種教室、カルチャーセンターなどが開くセミナー・講座など	13.1%	3位	12.7%
3位	生涯学習課やコミュニティセンター等、市が開催するセミナー・講座など	12.6%	2位	16.0%
4位	図書館、美術館、博物館の活用	12.0%	4位	10.9%
5位	クラブ、サークル等の団体活動	8.8%	5位	8.6%

あなたは、生涯学習に取り組むにあたって、どのような方法で学習していますか。
(○は3つまで)



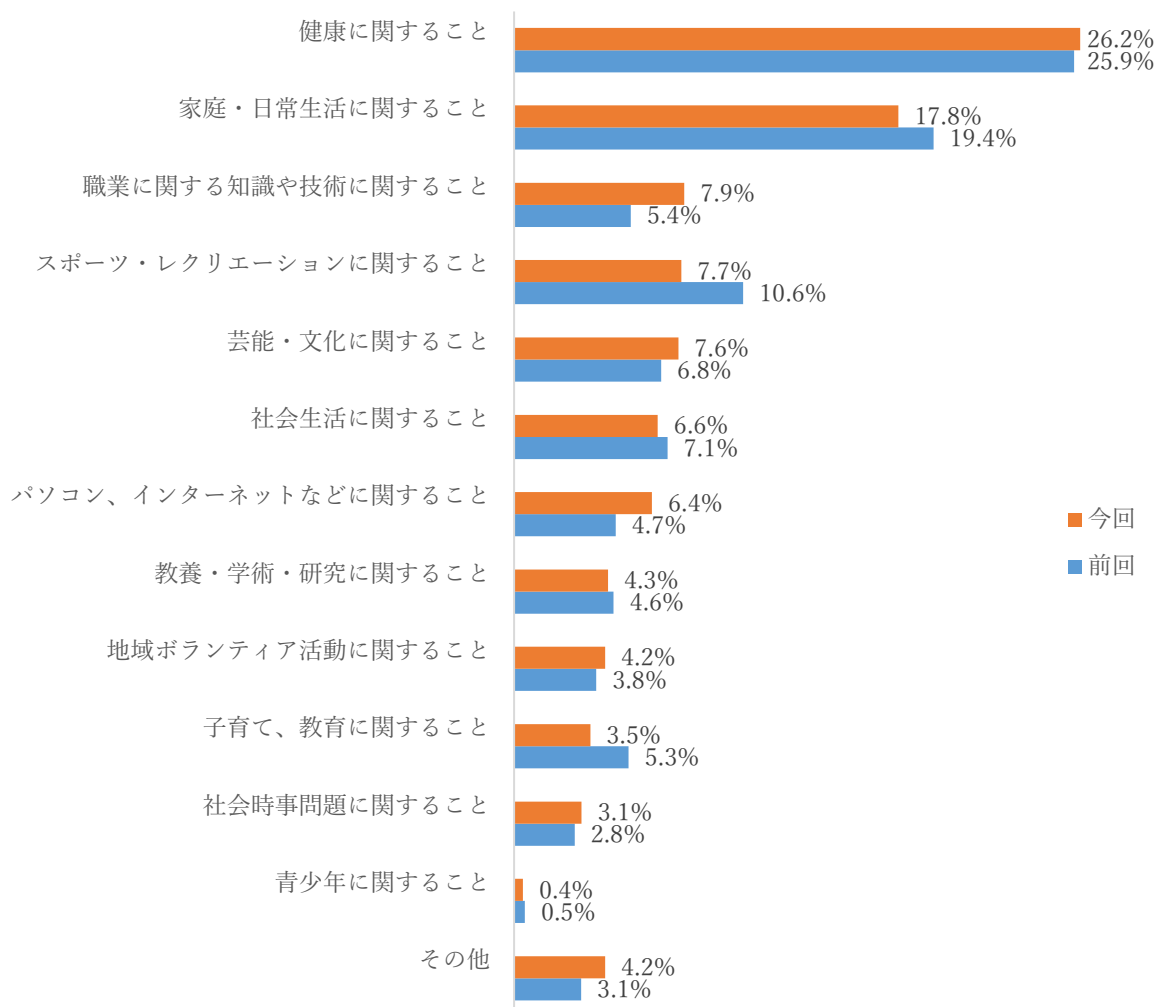
(総数：601)

④ 生涯学習の取り組み内容について

「健康に関すること」、「家庭・日常生活に関すること」への取り組みが多く、健康と日常生活に活かせる学びを実践していることが表れています。また、「職業に関する知識や技術に関すること」、「パソコン、インターネットなどに関すること」など、スキルアップにつながる生涯学習に取り組む人が増えています。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	健康に関すること	26.2%	1位	25.9%
2位	家庭・日常生活に関すること	17.8%	2位	19.4%
3位	職業に関する知識や技術に関すること	7.9%	6位	5.4%
4位	スポーツ・レクリエーションに関すること	7.7%	3位	10.6%
5位	芸術・文化に関すること	7.6%	5位	6.8%

あなたは、どのようなこと(内容)を生涯学習で取り組んでいますか。
(○は3つまで)



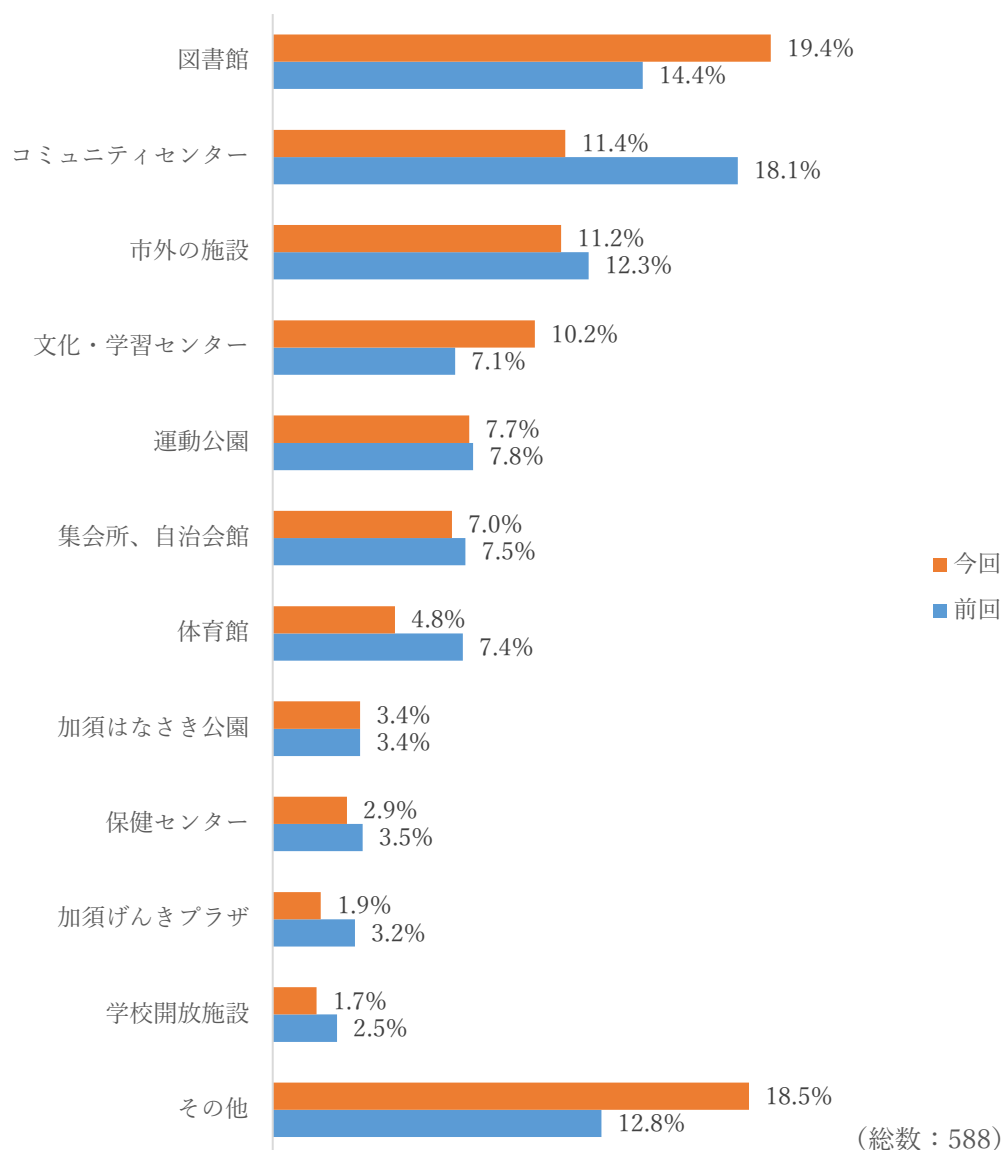
(総数：737)

⑤ 生涯学習を実践している場所について

生涯学習に取り組む場所として、「図書館」を多く利用している人の割合が増えていることが顕著です。また、「その他」の中では、「自宅」と回答する人が最も高い割合になります。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	図書館	19.4%	2位	14.4%
2位	コミュニティセンター	11.4%	1位	18.1%
3位	市外の施設	11.2%	3位	12.3%
4位	文化・学習センター	10.2%	7位	7.1%
5位	運動公園	7.7%	4位	7.8%

あなたは、どのような場所で生涯学習に取り組んでいますか。
(〇は5つまで)



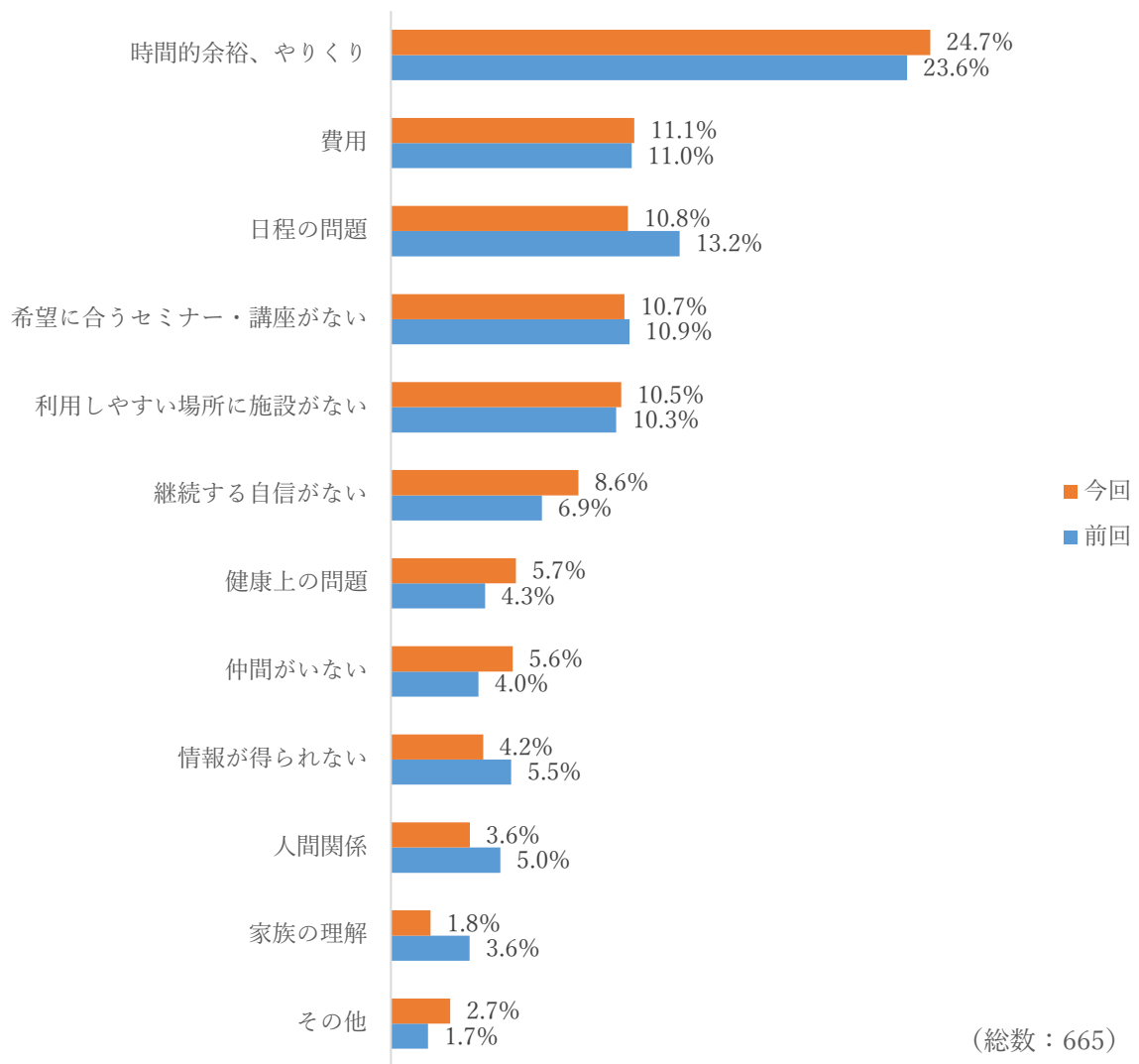
問2 学習機会の提供について

① 学習上の問題について

生涯学習に使える時間の確保が難しいとする人の割合が群を抜いて多く、その他にも費用面、健康上の不安など、様々な課題が見られます。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	時間的余裕、やりくり	24.7%	1位	23.6%
2位	費用	11.1%	3位	11.0%
3位	日程の問題	10.8%	2位	13.2%
4位	希望に合うセミナー・講座がない	10.7%	4位	10.9%
5位	利用しやすい場所に施設がない	10.5%	5位	10.3%

あなたは、生涯学習を進める上で、どのような学習上の問題がありますか。
(〇は3つまで)

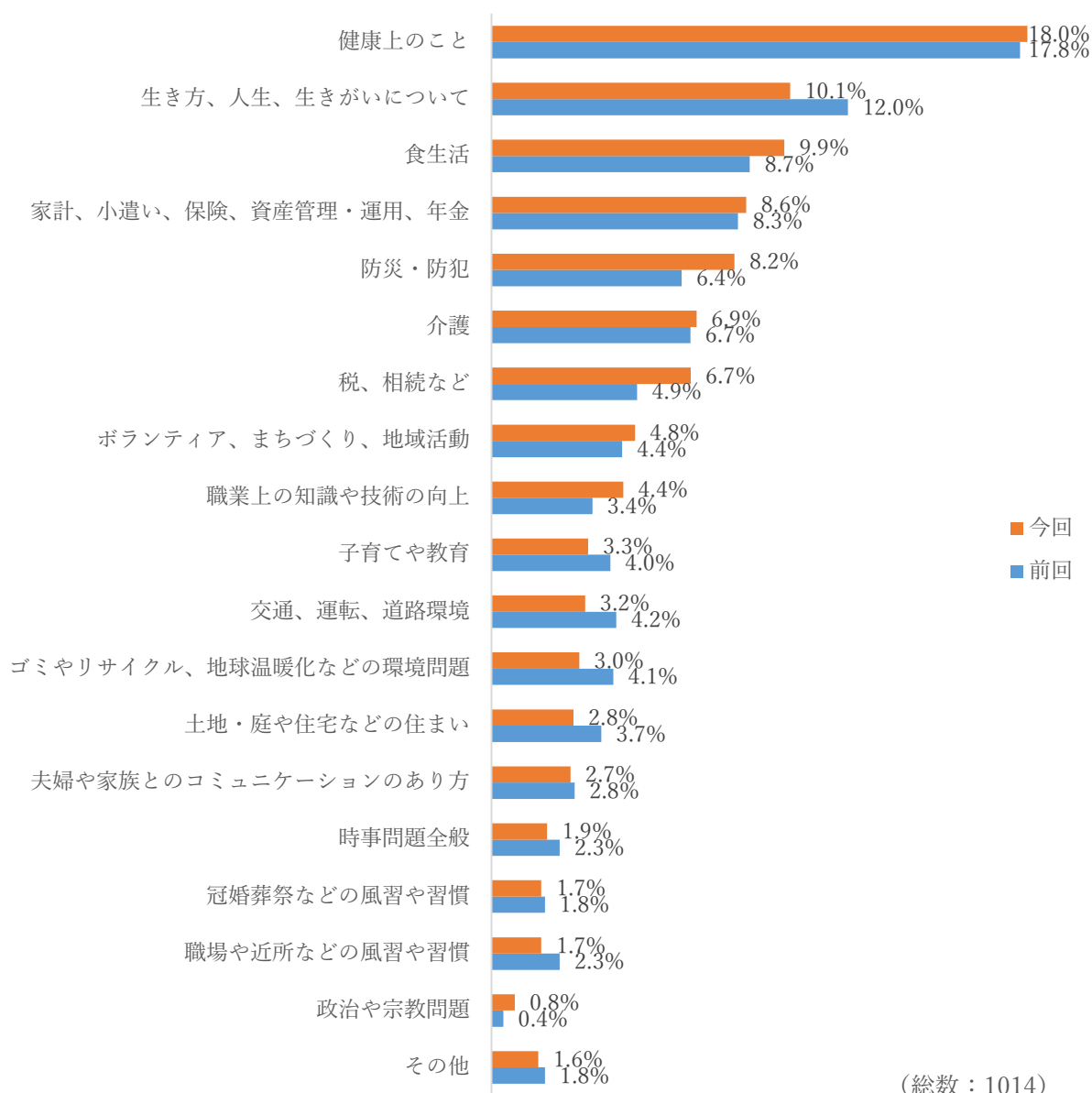


② 学習やセミナー・講座などに期待することについて

上位1～4位は前回と変化はありませんが、防災対策や防犯対策への危機管理意識の高まりが見られます。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	健康上のこと	18.0%	1位	17.8%
2位	生き方、人生、生きがいについて	10.1%	2位	12.0%
3位	食生活	9.9%	3位	8.7%
4位	家計、小遣い、保険、資産管理・運用、年金	8.6%	4位	8.3%
5位	防災・防犯	8.2%	6位	6.4%

あなたが、学習やセミナー・講座などに期待することは何ですか。
(〇は5つまで)



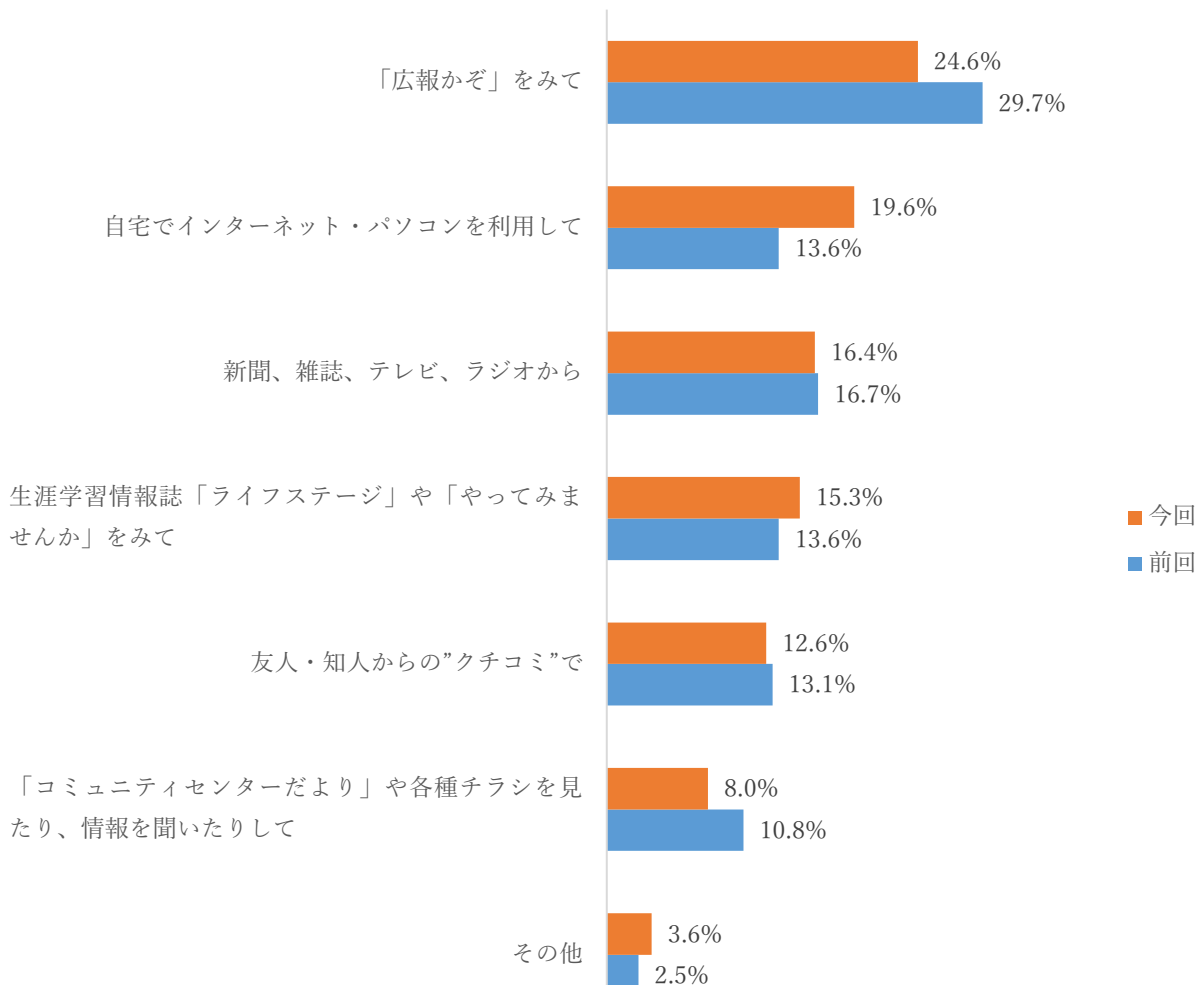
問3 学習情報・学習相談について

① 生涯学習に関する情報収集について

生涯学習に関する情報の収集方法については分散化の傾向にあります。「自宅でインターネット・パソコンを利用して」情報を収集する割合が増えています。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	「広報かぞ」をみて	24.6%	1位	29.7%
2位	自宅でインターネット・パソコンを利用して	19.6%	3位	13.6%
3位	新聞、雑誌、テレビ、ラジオから	16.4%	2位	16.7%
4位	生涯学習情報誌「ライフステージ」や「やってみませんか」をみて	15.3%	3位	13.6%
5位	友人・知人からの“クチコミ”で	12.6%	5位	13.1%

あなたは、生涯学習に関する情報をどのように収集していますか。
(〇は3つまで)



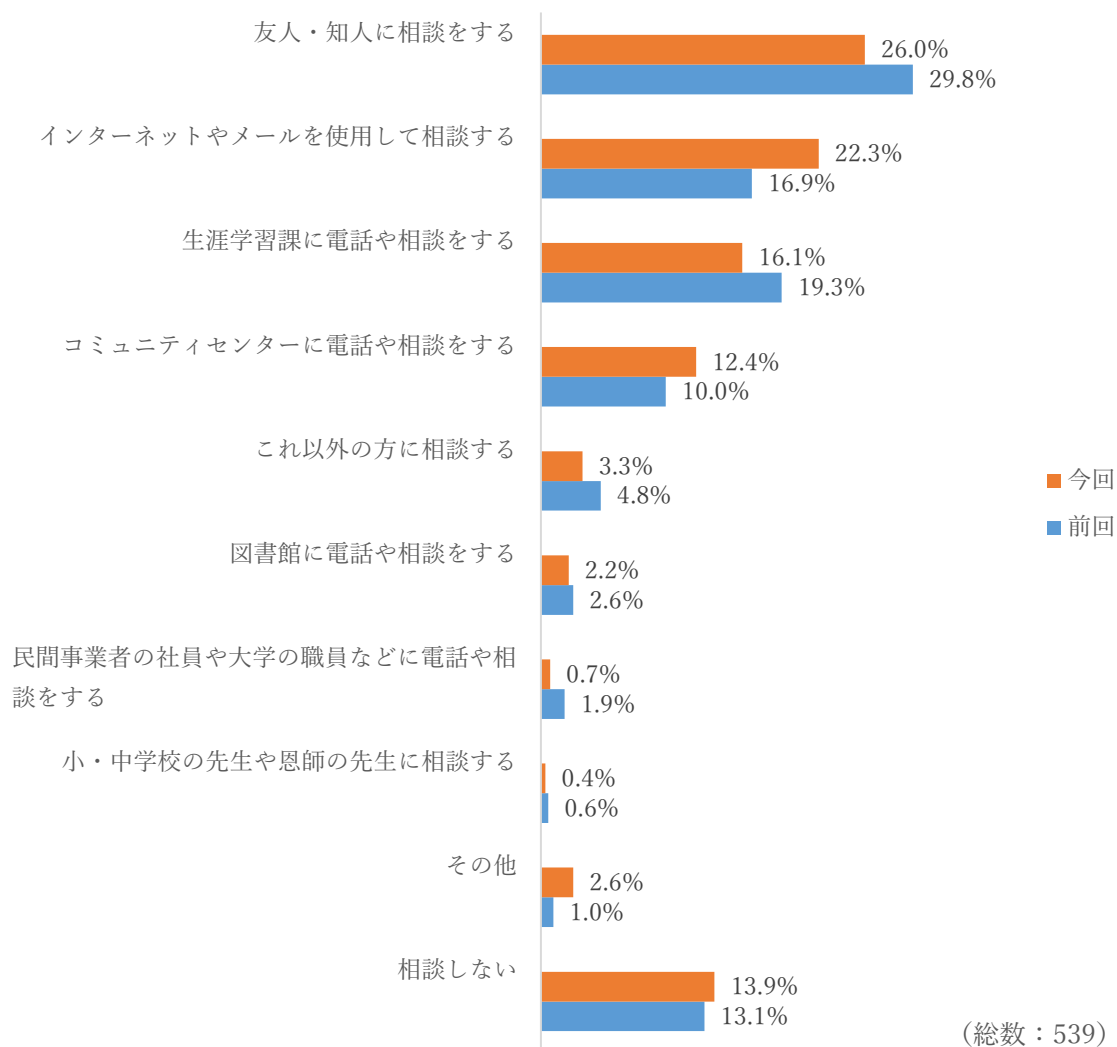
(総数：675)

② 生涯学習に関する相談について

いつでも、どこからでも、気軽に相談できる手段として「インターネットやメールを活用する」人の割合が大幅に増えています。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	友人・知人に相談する	26.0%	1位	29.8%
2位	インターネットやメールを利用して相談する	22.3%	3位	16.9%
3位	生涯学習課に電話や相談をする	16.1%	2位	19.3%
4位	コミュニティセンターに電話や相談をする	12.4%	4位	10.0%
5位	これ以外の方に相談する	3.3%	5位	4.8%

あなたは、生涯学習に関して相談したいとき、どのような方法を取りますか。
(○は3つまで)



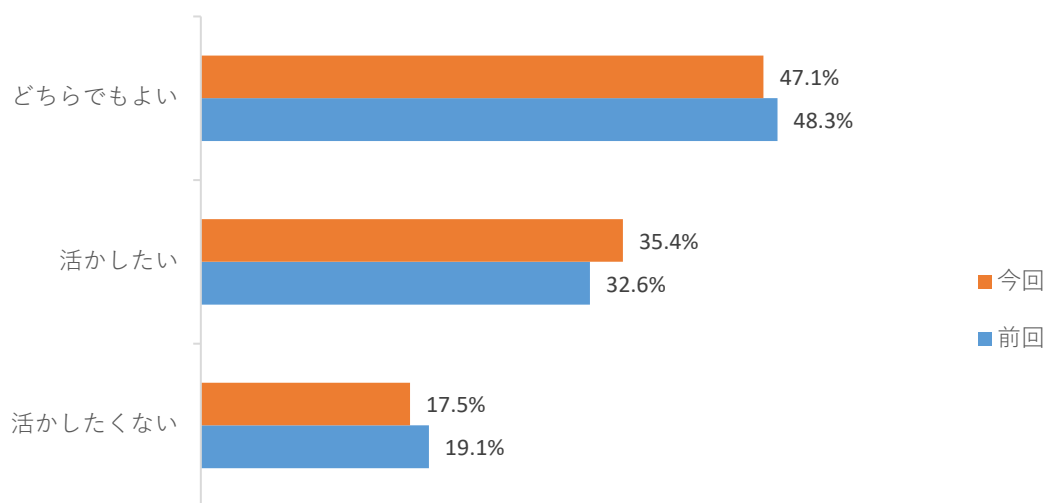
問4 学習成果について

① 学習成果の活かし方について

「活かしたい」、「どちらでもよい」を併せると8割になり、多くの人が学習成果を活かすことができる場があれば、活躍できると考えています。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	どちらでもよい	47.1%	1位	48.3%
2位	活かしたい	35.4%	2位	32.6%
3位	活かしたくない	17.5%	3位	19.1%

生涯学習で身につけた知識や技術等の学習成果を何らかの方法で活かしたいと考えますか。
(○は1つ)



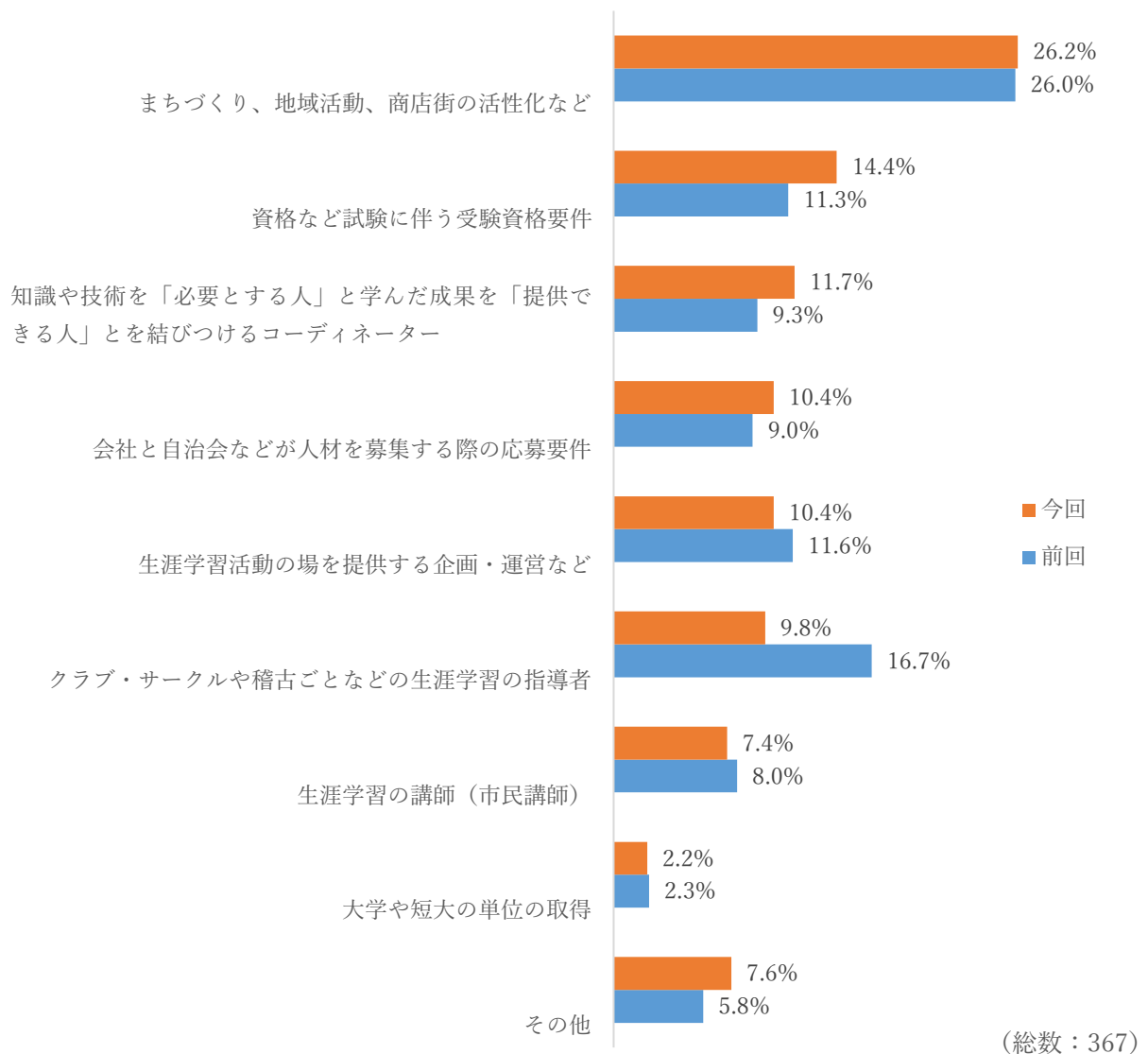
(総数：314)

※ 学習成果の活かし方について（「活かしたい」「どちらでもよい」の回答者）

学習成果の活かし方としては、「まちづくり、地域活動、商店街の活性化など」の割合が、前回同様、最も高い値となっています。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	まちづくり、地域活動、商店街活性化など	26.2%	1位	26.0%
2位	資格など試験に伴う受験資格要件	14.4%	4位	11.3%
3位	知識や技術を「必要とする人」と学んだ成果を「提供できる人」とを結びつけるコーディネーター	11.7%	5位	9.3%
4位	会社と自治会などが人材を募集する際の応募要件	10.4%	6位	9.0%
4位	生涯学習活動の場を提供する企画・運営など	10.4%	3位	11.6%

どのような活かし方がよいと思いますか。
（○は3つまで）



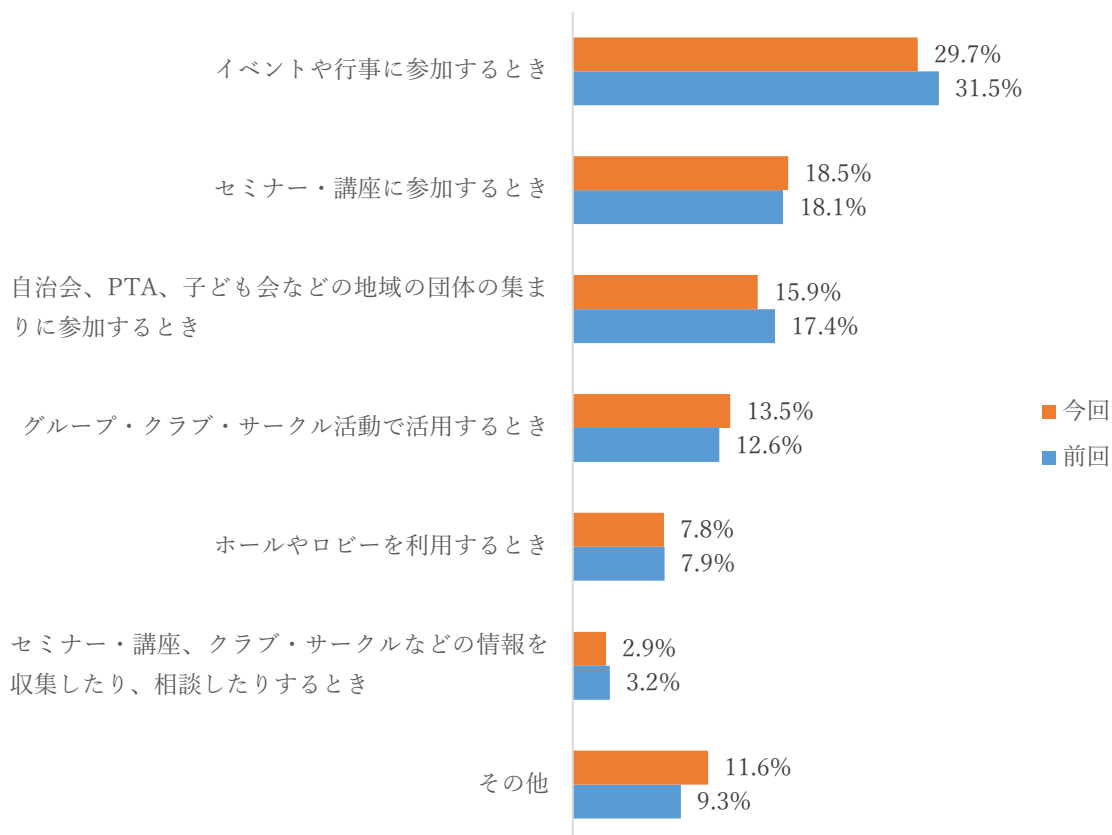
問5 文化・学習センターやコミュニティセンターの利用について

① 文化・学習センターやコミュニティセンターの利用について

利用する状況としては、「イベントや行事に参加するとき」の割合が、前回同様、最も高くなっています。

順位	回答項目	構成比	前回	前回構成比
1位	イベントや行事に参加するとき	29.7%	1位	31.5%
2位	セミナー・講座に参加するとき	18.5%	2位	18.1%
3位	自治会、PTA、子ども会などの地域の団体の集まりに参加するとき	15.9%	3位	17.4%
4位	グループ・クラブ・サークル活動で活用するとき	13.5%	4位	12.6%
5位	ホールやロビーを利用するとき	7.8%	5位	7.9%

あなたは、どのようなときにコミュニティセンターや文化・学習センターを利用していますか。
(○は2つまで)



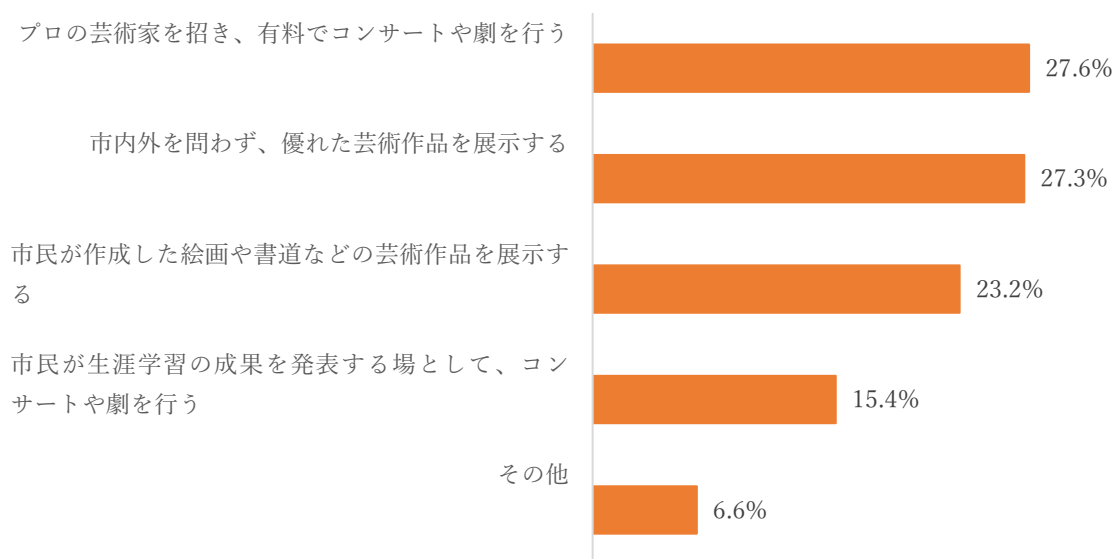
(総数：421)

② 芸術文化振興のための利用について

「プロの芸術家を招き、有料でコンサートや劇を行う」、「市内外を問わず、優れた芸術作品を展示する」が高い割合であり、有料であっても、優れた芸術性の高い展示会やコンサートなどを希望する市民が多いことがわかります。

順位	回答項目	構成比
1位	プロの芸術家を招き、有料でコンサートや劇を行う	27.6%
2位	市内外を問わず、優れた芸術作品を展示する	27.3%
3位	市民が作成した絵画や書道などの芸術作品を展示する	23.2%
4位	市民が生涯学習の成果を発表する場として、コンサートや劇を行う	15.4%

芸術文化振興のために最も望ましい利用はどれですか。
(1つまで)



(総数：319)

2 第3次計画の達成状況

第3次加須市生涯学習推進計画の目標値の達成状況のうち、4年間をとおして「大幅に遅れている」施策は、主に施設の利用や研修会、イベントなどに集う人数を指標にしているものです。

基本目標5の施策3は、令和4年度に計画期間途中で事業を見直したため、指標の達成状況を計れなくなったことから「大幅に遅れている」となっています。

また、指標が現状と乖離している事業については、より適切な指標の設定を検討する必要があります。

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基本目標1 生涯学習活動の推進					
施策1	生涯学習機会の充実	目標を達成	やや遅れ	概ね達成	概ね達成
施策2	生涯学習環境の整備・充実	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ
基本目標2 芸術文化の振興					
施策1	芸術文化活動の振興	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ
施策2	「加須の偉人」の顕彰	大幅に遅れ	大幅に遅れ	目標を達成	目標を達成
基本目標3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成					
施策1	文化財の積極的な保存・活用の推進	目標を達成	概ね達成	目標を達成	概ね達成
基本目標4 読書活動の推進					
施策1	こども読書活動の推進	大幅に遅れ	概ね達成	概ね達成	概ね達成
施策2	市民の読書活動の推進	目標を達成	大幅に遅れ	概ね達成	概ね達成
基本目標5 家庭や地域で健やかなこどもを育む取組の推進					
施策1	家庭教育の支援	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ
施策2	青少年の健全育成	目標を達成	概ね達成	概ね達成	概ね達成
施策3	学校・家庭・地域が一体となった教育の推進	目標を達成	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ
施策4	人権教育の推進	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ	大幅に遅れ

区分	評価の説明
1 目標を達成	当該年度に実施すべき取組を予定どおり、計画的に行い、事業実施による効果が表れた。 「効果が表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の100%以上に達し、当該年度の目標を達成したものをいう。
2 概ね達成	当該年度に実施すべき取組を円滑に行い、事業実施による効果が概ね表れた。 「効果が概ね表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の80%以上に達したものをいう。
3 やや遅れている	当該年度に実施すべき取組を行ったものの、事業実施による効果が小さかった。 「効果が小さかった」とは、成果指標の実績値が目標値の80%未満となったものをいう。
4 大幅に遅れている	何らかの課題があり、事務事業が滞ってしまっており、事業実施による効果が表れなかった。 「効果が表れなかった」とは、成果指標の実績値が目標値の50%未満となったものをいう。

第3章 生涯学習を推進する上での今後の課題

1 生涯学習活動の推進と施設の充実

(1) 学習情報の発信・充実

生涯学習においても、SNSなどのソーシャルメディアを活用して、最新の情報を発信することが求められています。そうした中で、調査結果では約4割の方が『広報かぞ』、生涯学習情報紙『ライフステージ』、『やってみませんか』などの紙媒体から情報収集をしています。今後においても、ICT機器を利用できる人と利用できない人の格差（デジタルデバイド）が生じないように、現行の発信方法を含めて情報発信の充実を図ります。

また、生涯学習活動の方法については、3割以上の方が「本・ラジオ・テレビによる個人学習」と答えており、「集団学習」よりも「個人学習」、「仲間づくり」よりも「個人のスキルアップ」を求める方が増加傾向にあることから、これらに対応する学習方法の検討が求められています。

(2) 学習機会の整備・充実

学習上の問題として、「時間的余裕、やりくり」が24.7%、「日程の問題」が10.8%と働く世代にとっては時間や日程的な問題が多くを占めており、学習機会が十分に確保できない状況にあると言えます。

市民が求める生涯学習のニーズは多様化しており、生涯学習活動への参加意欲が潜在的に多い状況において、市民ニーズに対応した学習機会を提供していく必要があります。また、DX化とインターネット環境の進展により、場所や時間にとらわれずに学習できる、環境を整備するための方策が求められています。

セミナー・講座に期待するものについては、「健康上のこと」が変わらず高い一方、地震や台風などの自然災害や特殊詐欺事件などの増加に伴い「防災・防犯」への意識が高まるなど、ニーズが多様化しており、こうしたことを考慮して学習機会を提供することが課題となっています。

(3) 学習成果の活用

生涯学習活動で身につけた知識や技能などの学習成果を、「活かしたい」という回答が多いことから、市民の豊かな知識や経験を伝える場を整える必要があります。また、その活かし方については、「まちづくり、地域活動、商店街の活性化など」が最も高く、次いで「資格など試験に伴う受験資格要件」が前回4位から2位に上がっています。

自分自身のために学ぶことは大切なことですが、シニア世代をはじめとする市民の豊かな知識や経験を地域の人たちに伝え広めるために、知識や経験を有した人が地域で活躍できる場を提供することも必要です。

地域の人材を発掘し協働して生涯学習を展開することにより、学習内容を更に充実させ、市民の学び直しをはじめとする学習ニーズや社会的課題に対応した学習機会を提供していく必要があります。また、市内の各種団体・サークルの活動状況を広く市民に情報提供することにより、人と人をつなぐ役割を十分に果たし、市民が豊かな知識や経験を活かして地域で活躍できる場の充実を図ることが求められています。

(4) 生涯学習関連施設の有効活用

建築後 30 年を超えた文化・学習センター4 館は、施設及び設備ともに経年劣化が顕著になっています。同様に、建築後 20 年を超えた加須未来館は、常設展示物が開館当時とほとんど変わらないことが課題の一つであり、宇宙や天体、科学について楽しく学ぶことができる教育施設として機能を充実させ、魅力をアップしていくことが欠かせません。

文化・学習センター、市民プラザ、コミュニティセンター、加須未来館、郷土資料館、図書館においては、生涯学習活動の拠点として市民が魅力を感じ、積極的に活用できるように一層の環境整備をすることが求められています。

2 芸術文化の振興

芸術文化は、人生を豊かにするとともに、新たな創造や交流を生み出す力を持っています。文化芸術に触れる機会を市民に提供することは、充実した人生を送ることにもつながります。心の豊かさや生きがいを求めるための生涯学習ニーズが高まる中で、今後も、豊かな感性と創造力に富んだ芸術文化の振興を図る必要があります。

3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成

本市には、これまで培ってきた生活文化や歴史的資源、魅力などが数多く残されています。こうした文化財は、貴重な郷土の自然・風土・歴史を理解するために欠かすことができないものであることから、郷土の文化や伝統を次世代に継承することが重要です。

国の重要無形民俗文化財「玉敷神社神楽」、県の指定の天然記念物「加須の浮野とその植物」、市の指定の天然記念物「オニバス自生地」や有形文化財「下總皖一肉筆楽譜」などこれら貴重な文化財に対し、市民が親しみをもち、生涯学習の素材として身近に活用ができるよう、引き続き調査研究と保存に取り組んでいかなければなりません。

併せて、市民の郷土に対する理解を深めて郷土愛の醸成を図るため、貴重な文化財を広く紹介し、文化財の活用を通じた地域活性化に取り組んでいきます。

4 読書活動の推進

近年の携帯情報端末やインターネットの普及による「読書離れ」が指摘される中、本市においても図書館の利用者数、貸出数ともに減少傾向にあります。このため、各図書館は、市民の読書施設・情報の拠点として、今後において市民の多様な学習ニーズに対応し、図書館資料の充実に努めるとともに、Wi-Fi 環境の整備や図書資料のデジタル化を進めていく必要があります。さらに、将来を見据えて特色ある図書館とするために各館のあり方を見直すことも必要となります。

5 家庭や地域で健やかなこどもを育むための取組の推進

こどもたちが心豊かに健やかに育つためには、こどもたちが地域の人と関わりながら、社会体験活動に参加したり、保護者同士が交流したりすることが有効と考えます。また、家庭の教育力を向上させていくことも、こどもたちの豊かな人格を形成する上で重要と捉えています。

そこで、家庭・学校・地域や関係機関・団体が円滑に連携し合うことができるようにすることにより、社会全体で家庭教育を支援する態勢を整えます。

加えて、学校、家庭、地域及び関係機関が青少年の健全育成支援に関わり、こどもの健やかな成長・自立を促すための家庭教育及び青少年健全育成に関する施策を充実していきます。

第4章 基本理念と基本目標

生涯学習の推進にあたっては、市民が生涯にわたり「何を学び、どう活かすか」を主体的に実践し、本市の自然・歴史・文化に根ざした持続可能で豊かな地域コミュニティづくりを進めていくことが重要と考えます。その実現のために、防災・減災、健康・介護予防、環境、地域産業デジタルリテラシーに結び付く学びを推進し、発表・実践・協働を通して学びの成果をまちづくりへ循環することができる人づくりが求められています。

また、国際化やICT化が進む中、世代・地域・障がいの有無・経済状況・デジタル習熟度によらず、誰一人取り残さない学びを保障し、温かなコミュニケーションでつながりとウェルビーイングを高めていくことも求められます。

さらに、子どもたちが心豊かに健やかに育つためには、家庭・学校・地域・関係機関が連携した家庭教育の充実が重要です。

そこで、本計画では、教育基本法第3条に示された生涯学習の理念を踏まえるとともに、第3次加須市ひとづくりプランの基本理念「学びから未来へつなぐ人づくり」に基づき、これからの10年先、20年先の社会環境の変化に対応し、自らの人生を主体的に切り拓いていくことができる人づくりを目指して「学びから未来へつなぐ人づくり」を基本理念とします。

《 基本理念 》

学びから未来へつなぐ人づくり

基本目標

加須市の生涯学習の現状を踏まえつつ、「学びから未来へつなぐ人づくり」を基本理念に第3章に示した主要な課題の解決を通して目指すべき生涯学習の実現に向けて、次の5つの基本目標を設定し、これに基づき施策を推進します。

「基本目標1 生涯学習活動の推進と施設の充実」、「基本目標2 芸術文化の振興」、「基本目標3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成」については、全ての市民の学びを支援する学習環境の充実に向けた施策を推進します。

また、「基本目標4 読書活動の推進」については、生涯にわたる読書活動による人づくりの重要性を踏まえ、読書に親しむ環境づくりや読書の振興に向けた施策を推進します。

「基本目標5 家庭や地域で健やかな子どもを育む取組の推進」については、学校・家庭・地域と連携し、地域の教育力の向上と生涯を通じた人権教育の充実を図るための施策を推進します。

基本目標1 生涯学習活動の推進と施設の充実

市民の学習参加のきっかけづくりと学習活動の深まりを目的に、生涯学習市民企画委員との協働による「市民学習カレッジ」やコミュニティセンターが実施する「生涯学習セミナー」を開講するとともに、平成国際大学や企業等と連携して、専門的な学びの場の充実を図ります。

また、新規受講生の掘り起こしに取り組むとともに、学習講座のDX化の推進を図り、市民一人ひとりの学習ニーズやライフスタイルに応じた学習機会の提供に努めます。

文化・学習センターやコミュニティセンター、図書館などの施設間の連携を強化し、それぞれの機能を活かした幅広い事業展開を推進して学習機会の充実を図ります。

さらに、地域社会への参画のきっかけとなる市民の生涯学習活動を推進し、市民が持つ豊かな知識や経験を伝え広める機会を創出し、地域社会での活躍の場の充実を図ります。

文化・学習センター4館については、市民の芸術文化活動や生涯学習活動の拠点施設として、より多くの市民が安全かつ快適に利用できるよう、効率的な管理運営及び計画的な施設修繕を実施し、施設の充実を図ります。

また、加須未来館においては、子どもをはじめとした市民の宇宙や天体、科学に関する関心を高め、楽しく学ぶことができる教育施設としての機能充実を図るため、様々な手法を活用して、展示の更新や体験遊具の新規購入などリニューアルを進めることにより、新たな魅力を創造します。

基本目標 2 芸術文化の振興

市民一人ひとりの豊かな感性と創造力を高めることができる芸術文化の振興を図るため、文化祭や加須市美術展、県展かぞなどを開催し、青少年、高齢者、障がい者をはじめ、あらゆる市民の主体的な文化創造活動を支援するとともに、市民の誰もが優れた芸術文化に身近で気軽に触れ親しむ機会の充実に努めます。

また、斎藤与里、河野省三、田中正造、下總皖一、若林珮蔵、谷山豊、田口和美の加須の偉人7人の功績を顕彰する機会をさらに増やし、市民としての誇りや「ふるさと加須市」への郷土愛の醸成を図ります。

基本目標 3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成

地域の歴史や文化を物語る貴重な文化財を、市民共有の財産として適切に保存・管理します。民俗芸能の伝承支援や文化財、歴史資料の調査・公開・展示を行うことにより、市民が文化財等に親しみ、その価値を深めていける取組を推進し、次世代へ保存継承するとともに、郷土愛の醸成と地域活性化を図ります。

また、郷土の歴史を伝える文化財や歴史資料、加須の昔ばなしなどを「加須インターネット博物館」や「加須市郷土かるた」で紹介します。

なお、考古資料については、騎西郷土史料展示室（騎西城）を核とした施設、水と暮らしに関する民俗資料は、北川辺郷土資料館を核とした施設に集約して適切に保存し、展示公開を行います。

さらに、市内に分散管理する膨大な収蔵資料の保存・管理について、収蔵施設の再編を進めます。

基本目標 4 読書活動の推進

乳幼児健診時での絵本の配布、おはなし会の開催や読み聞かせ、小中学校における家読（うちどく）の啓発やブックトーク、授業での図書館利用の促進など、こどもが自主的な読書活動ができる環境を整備し、読書のきっかけづくりや読書活動の習慣化を図り、こどもの読書活動がより一層活発になるような取組を推進します。

また、読書活動に関する市民の多様なニーズに対応するため、市立図書館と埼玉県内公立図書館との連携を強化し、蔵書の充実を図りながら、市民の読書活動を推進します。

さらに、紙媒体の図書資料だけではなく、いつでもどこでも利用できる電子書籍の導入や図書館へのWi-Fi環境の整備、地域資料等のデジタル化など新しい利用者サービスの充実を図りながら、各館に特色を持たせた図書館のあり方について検討します。

基本目標 5 家庭や地域で健やかな子どもを育むための取組の推進

地域の教育力の向上を図るために学校・家庭・地域及び関係機関の連携を強化し、青少年団体の育成、家庭教育の充実及び青少年活動を支援する取組を推進します。また、地域で子どもを育てる気運の醸成と地域の教育力の向上を図るため、各地域で活動する青少年健全育成団体の活動を支援し、地域と一体となって健やかな子どもを育む取組を推進します。

学校、家庭、地域、企業等も含めた市民総ぐるみの協働により、あらゆる場・機会を通じて、同和問題をはじめとする様々な人権問題を対象とした人権教育についての啓発活動を行い、人権問題に対する正しい理解と認識を深めることができるように努めます。

また、人権問題の解決のために、市民一人ひとりが相手を思いやる気持ちを持ち、差別や偏見のない住みよい社会を実現するために、多様な場での学習機会を通して、人権教育の充実を図ります。

第5章 施策の体系

基本目標1

生涯学習活動の推進と施設の充実

施策1 生涯学習機会の充実

- (1) 生涯学習推進計画進行管理事業
- (2) 生涯学習情報の総合的収集・提供事業
- (3) 生涯学習きっかけづくり支援事業
- (4) 市民学習カレッジ事業
- (5) シニアいきいき大学事業
- (6) 生涯学習フェスティバル開催事業
- (7) 各種協力団体との連携によるイベント等の実施
- (8) 大学、高校、企業等との連携推進事業
- (9) 地域市民活動促進事業
- (10) 環境学習推進事業

施策2 生涯学習環境の整備・充実

- (1) コミュニティセンター管理運営事業
- (2) 文化・学習センター管理運営事業
- (3) 加須未来館管理運営事業
- (4) 田ヶ谷総合センター管理運営事業
- (5) 集会所管理運営事業

基本目標2

芸術文化の振興

施策1 芸術文化活動の振興

- (1) 地域文化振興事業
- (2) 地区文化祭振興事業
- (3) 加須市郷土かるた大会開催事業
- (4) 文化・学習センター芸術文化振興事業

施策2 「加須の偉人」の顕彰

- (1) 偉人顕彰事業

基本目標3

文化財の保存継承による郷土愛の醸成

施策1 文化財の積極的な保存・活用の推進

- (1) 文化財の保存と活用による地域活性化事業
- (2) 騎西・北川辺郷土資料館管理運営事業
- (3) 加須インターネット博物館管理運営事業
- (4) 伝統文化継承支援事業
- (5) 「浮野の里」自然環境保全事業
- (6) オニバス保護活用事業

基本目標4

読書活動の推進

施策1 こども読書活動の推進

- (1) 絵本との親子ふれあい事業
- (2) ブックトーク・おはなし会開催事業

施策2 市民の読書活動の推進

- (1) 図書資料整備充実事業
- (2) 図書館管理運営事業
- (3) 図書館まつり開催事業

基本目標5

家庭や地域で健やかな子どもを育む取組の推進

施策1 家庭教育の支援

- (1) 家庭の学びと地域の絆推進事業

施策2 青少年の健全育成

- (1) 青少年健全育成事業
- (2) 二十歳の集い開催事業

施策3 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

- (1) あいさつふれあい推進事業
- (2) こどもの居場所づくり事業
- (3) かぞ子ども大学事業

施策4 人権教育の推進

- (1) 人権教育推進事業

第6章 基本目標の実現に向けた施策

基本目標1 生涯学習活動の推進と施設の充実

施策1 生涯学習機会の充実

市民の学習参加のきっかけづくりと学習活動を支援するため、生涯学習セミナー（講座）の充実を図ります。

また、60歳以上の市民の学習ニーズに応えるとともに、その力を社会に活かし、長寿社会を明るく活気に満ちたものとするため、平成国際大学と連携して、加須市シニアいきいき大学の充実を図ります。

さらに、生涯学習活動で学んだ知識や経験を地域社会で活かせる機会の充実を図ります。

事業名	生涯学習推進計画進行管理事業	担当課	生涯学習課
取組内容	生涯学習の基本施策や生涯学習事業の進行状況の把握や管理を行う。また、生涯学習推進計画の取組内容の評価や意見を確認するため、生涯学習推進会議を開催する。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
計画に基づく取組の達成度（達成度が「概ね達成」以上となっている取組の割合）		58%	100%

事業名	生涯学習情報の総合的収集・提供事業	担当課	生涯学習課
取組内容	生涯学習情報を広く市民に提供するため、学習機会の情報（セミナー等）、クラブ・サークル情報、各種イベント情報、市民の学習成果などを掲載した情報紙を作成し、広く市民に情報を提供する。また、市民との情報の共有を図るためにホームページを一層充実させ、積極的な情報提供を行う。さらに、生涯学習イベントの機会を活用し、クラブ・サークルのメンバー募集のPR支援に取り組む。 加えて、図書館の行政情報PRの仕組みを活用し、市民への効果的な情報提供を行う。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
活動広報や新規メンバー募集のサポート		12回	14回
図書館の行政情報PRへの依頼回数		2回	8回

事業名	生涯学習きっかけづくり支援事業	担当課	生涯学習課
取組内容	<p>学習活動の深まりを目的に、市民の学習のきっかけづくりを支援する。コミュニティセンターや各文化・学習センターにおいて、地域の課題をテーマとした学習機会や世代間交流を考慮しながら、地域住民の学習ニーズに対応した講座を開催する。</p> <p>また、豊かな知識や経験を有する市民が市民講師となり地域で活躍していただくとともに、各種セミナー（講座）やイベントにおける市民講師の積極的な活用を行う。</p>		
指 標 名	現状値(R6)	目標値(R12)	
コミュニティセンター講座受講率（受講者数÷定員）	79%	85%	
市民講師登録者数	228人	300人	

事業名	市民学習カレッジ事業	担当課	生涯学習課
取組内容	<p>コミュニティセンターや文化・学習センター等と連携し、「きっかけづくりセミナー」「趣味的セミナー」「現代的・社会的課題セミナー」「まなびのセミナー」を総合的に取り入れた幅広いセミナーを実施する。</p> <p>また、市民の多様なニーズに応えるため、学習相談の機能と体制の充実を図り、積極的なPRを行う。</p> <p>さらに、市民ボランティアである生涯学習市民企画委員と協働し、生涯学習セミナー（講座）やイベントの企画運営を行う。</p>		
指 標 名	現状値(R6)	目標値(R12)	
市民学習カレッジ受講率（受講者数÷定員）	84%	88%	
市民学習カレッジ受講満足度	90%	100%	
地域課題解決型学習講座※1の増設	9講座	11講座	

※1 地域課題（人口、社会、地域、福祉、防災、こども、環境、食等）をテーマにした講座

事業名	シニアいきいき大学事業	担当課	生涯学習課
取組内容	<p>平成国際大学と連携を図り、60歳以上の市民を対象とした学部を開設し、運営する。</p>		
指 標 名	現状値(R6)	目標値(R12)	
シニアいきいき大学受講満足度	93%	100%	
シニアいきいき大学受講生の受講率（受講者数÷定員）	85%	90%	

事業名	生涯学習フェスティバル開催事業	担当課	生涯学習課
取組内容	<p>学習成果発表の場として、市内で活躍している市民講師、サークル及びセミナー受講生等の学習活動や創作活動を紹介する生涯学習フェスティバルを開催する。</p>		
指 標 名	現状値(R6)	目標値(R12)	
生涯学習フェスティバル来場者数	3,047人	3,200人	

事業名	各種協力団体との連携によるイベント等の実施	担当課	生涯学習課
取組内容	生涯学習市民企画委員や文化祭実行委員会等の各種協力団体と連携をして、団体の持つ学習資源を活用することで内容の充実を図りながら、イベント等を実施する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
連携する各種協力団体数		14 団体	16 団体

事業名	産学官連携推進事業	担当課	政策調整課
取組内容	地元の大学や高校、企業などと幅広い連携を図りながら、産・学・官協働による事業を推進する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
大学、高校、企業等との連携事業数		39 事業	35 事業

事業名	地域市民活動促進事業	担当課	市民協働推進課
取組内容	市民活動ステーション（くらくら館）を拠点として、市民の自主的・主体的なまちづくり活動への参加を促進する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
市民活動ステーション年間利用者数		5,087 人	5,500 人
地域市民活動団体数		82 団体	86 団体

事業名	環境学習推進事業	担当課	環境政策課
取組内容	日常における環境問題について理解を深め、環境に配慮した実践活動につなげるため、環境フォーラムや自然観察会、環境学習講座等を開催する。ニーズにあった環境学習課題をテーマとする講演や展示、体験型ワークショップなどを企画実施する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
環境フォーラム参加者数		150 人	200 人

施策 2 生涯学習環境の整備・充実

本市には、文化・学習センターや市民プラザ、コミュニティセンター、加須未来館、郷土資料館、図書館等様々な生涯学習関連施設があります。市民がこれらの施設を有効活用するためには、施設間で十分に連携を図ります。

施設利用者の安全性や利便性、学習環境の向上を図るため、施設の適正な維持管理に努めるとともに施設の充実を図ります。

事業名	コミュニティセンター管理運営事業	担当課	市民協働推進課
取組内容	地域の拠点施設として、多くの市民が安全安心に利用できるよう、施設の適正な維持管理を行い、地域コミュニティ活動の推進を図る。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
コミュニティセンター利用者数		225,799人	226,400人

事業名	文化・学習センター管理運営事業	担当課	生涯学習課
取組内容	市民の芸術文化活動や生涯学習活動の拠点施設として、安全かつ快適に利用できるよう施設の維持管理、事業運営を行う。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
文化・学習センターの利用者数		182,321人	250,000人
加須文化・学習センターの平均稼働率		43%	50%
騎西文化・学習センターの平均稼働率		48%	55%
北川辺文化・学習センターの平均稼働率		54%	59%
大利根文化・学習センターの平均稼働率		61%	65%

事業名	加須未来館管理運営事業	担当課	生涯学習課
取組内容	加須未来館の施設管理、事業運営を行い、科学体験学習を推進する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
加須未来館の来館者数		53,651人	100,000人
プラネタリウム観覧者数		12,732人	13,500人

事業名	田ヶ谷総合センター管理運営事業	担当課	人権・男女共同参画課
取組内容	福祉の向上及び人権啓発のための市民交流の拠点施設として、利用の促進を図り、安全かつ快適に利用できるよう施設の維持管理、事業運営を行う。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
施設利用者数		10,793人	11,000人

事業名	集会所管理運営事業	担当課	生涯学習課
取組内容	各地区の市立集会所施設における保守・修繕等の維持管理を図り、市民に身近な学習の場や交流の場として活用されるよう、利便性の向上を図る。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
集会所年間利用者数		3,978人	4,320人

基本目標 2 芸術文化の振興

施策 1 芸術文化活動の振興

市民が主体となった芸術文化活動を支援するため、各地域文化祭の開催や県展出品物の展示などを行い、多くの市民に優れた芸術文化に触れる機会を提供します。

また、各地域の文化・学習センターやコミュニティセンター等で文化祭・芸術文化イベントを開催し、市民が芸術文化に触れたり、自らの作品を披露したりできる機会を創出します。

さらに、加須市郷土かるた大会を開催し、こどもたちの郷土愛を育みます。

事業名	地域文化振興事業	担当課	生涯学習課
取組内容	市民が多くの文化・芸術に触れる機会をつくとともに、市民が主体となって豊かな感性と創造力に富んだ芸術文化を発表する機会を提供する。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
各地域文化祭の来場者数		12,742人	18,000人

事業名	地区文化祭振興事業	担当課	生涯学習課
取組内容	生涯学習講座及び各地区で活動するクラブ・サークルの学習成果を発表・展示することにより、市民の学習意欲を高めるとともに、交流を深める。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
地区文化祭の来場者数		5,021人	6,000人

事業名	加須市郷土かるた大会開催事業	担当課	生涯学習課
取組内容	加須市郷土かるたの普及を図るとともに、加須市の伝統文化や偉人等が読み込まれているかるたを活用して、市民の郷土愛の醸成を図る。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
大会参加者数		220人	300人

事業名	文化・学習センター芸術文化振興事業	担当課	生涯学習課
取組内容	プロの文化団体やアーティストの公演を実施し、市民が一流の芸術作品に触れる機会を設けるとともに、多くの市民が芸術文化活動に主体的に参加し、その活動の成果を発表する機会を提供する。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
加須文化・学習センター自主公演事業年間入場者数		2,500人	3,100人

施策2 「加須の偉人」の顕彰

偉人ごとの講演会やイベントにおけるパネル展示を行い、齋藤与里、河野省三、田中正造、下總皖一、田口和美、谷山豊、若林珣蔵の7名の偉人の功績を顕彰するとともに、市民の誇りとして後世に受け継ぐことに努めます。

事業名	偉人顕彰事業	担当課	生涯学習課
取組内容	加須の偉人について、様々なイベント時におけるパネル展の同時開催をし、パンフレットを配布するなど、顕彰活動を行う。また、各偉人の資料展示、企画展示の充実を図る。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
偉人パネル展開催回数		9回	14回

基本目標3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成

施策1 文化財の積極的な保存・活用の推進

市内の文化財や民俗資料、伝統文化を保存・活用するために文化財の調査や資料の収集を行い、必要に応じて保護・修理を行います。文化財の保護・継承活動を行う所有者や保護団体に対し、その活動を支援します。

また、市内の文化財等を、騎西郷土史料展示室（騎西城）や北川辺郷土資料館において展示するとともに、「加須インターネット博物館」での紹介や文化財説明板の設置やパンフレットの刊行などを行うことで、広く普及啓発に努め、文化財の活用を通じた地域活性化を図ります。

事業名	文化財の保存と活用による地域活性化事業	担当課	生涯学習課
取組内容	市内の文化財を調査・保存・活用することにより、後世に継承する。地域に残されている文化財の活用に取り組むことで、地域の活性化を図る。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
指定・登録文化財の件数		195件	197件

事業名	騎西・北川辺郷土資料館管理運営事業	担当課	生涯学習課
取組内容	騎西郷土史料展示室（騎西城）は、考古資料や歴史史料、民俗資料を展示し、土・日・祝日に開館することにより、来館者の増加に努める。水辺の暮らしに関する資料を収集し、北川辺郷土資料館に展示する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
	騎西郷土史料展示室への年間来館者数	8,564人	10,000人
	北川辺郷土資料館への年間来館者数	238人	400人

事業名	加須インターネット博物館管理運営事業	担当課	生涯学習課
取組内容	インターネット上の総合博物館として、郷土の歴史・文化を網羅した動画や画像を活用し、情報を提供する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
	インターネット博物館へのアクセス回数	21,014件	23,000件

事業名	伝統文化継承支援事業	担当課	生涯学習課
取組内容	各種伝統文化の継承団体（獅子舞連合会、玉敷神社神楽保存会、武州加須囃子）の活動を支援する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
	伝統文化保存会会員者数	288人	320人

事業名	「浮野の里」自然環境保全事業	担当課	環境政策課
取組内容	準絶滅危惧種であるトキソウをはじめ、多くの希少植物が自生する浮野を保護し、豊かな自然環境の保全を図る。毎月1回、自生植物の生育状況や浮野の環境変化を調査する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
	トキソウ自生地の調査回数	12回	12回

事業名	オニバス保護活用事業	担当課	北川辺総合支所 地域振興課
取組内容	絶滅危惧種であるオニバス及び同所に自生する水生植物の保護育成を行い、豊かな自然環境の保全を図り、観光資源としての活用を図る。 自生地の情報発信や管理団体の支援を行う。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
	オニバス自生地来訪者数	1,580人	1,600人

基本目標 4 読書活動の推進

施策 1 こどもの読書活動の推進

就学前から学齢期にかけて、読書環境はこどもの発達に重要な役割を果たします。こどもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身につけるために、読書活動をより身近に感じられる環境の整備を図ります。

事業名	絵本との親子ふれあい事業	担当課	図書館課
取組内容	親子で絵本に親しむ家庭の割合を高め、乳児の健やかな心の成長を支援する。9～10か月健診時に乳児とその保護者に絵本と絵本リストをプレゼントする。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
絵本を配布した親子の割合		90%	90%

事業名	ブックトーク・おはなし会開催事業	担当課	図書館課
取組内容	本を読むことの楽しさや、こどもたちの自主的な読書活動を支援するために、小中学校等と連携して、職員やボランティアがブックトーク、絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングなどを学校等に出向いて行う。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
ブックトークの年間実施回数		42回	44回

施策 2 市民の読書活動の推進

読書は場所を選ばず、手近にできる生涯学習です。本を読むことを通して知識を得るだけでなく、価値観や感性、考える力、想像する力、表現する力などを育てることができます。読書は、人生を豊かにできる活動と言えます。

そこで、市民一人ひとりが生涯にわたり、読書に親しむことのできる環境づくりを推進します。

事業名	図書資料整備充実事業	担当課	図書館課
取組内容	市民の読書活動を推進するために、読書活動に関する市民の多様なニーズに対応し、蔵書の充実を図る。		
指標名		現状値(R6)	目標値(R12)
市民一人当たりの蔵書数		5.26冊	5.29冊

事業名	図書館管理運営事業	担当課	図書館課
取組内容	図書館利用者サービスの充実を図り、利用を促進するために、図書館情報システムを活用して、図書館資料の貸出・返却・予約処理等を効率的に行う。また、市民の多様なニーズに対応するため、埼玉県内公立図書館との連携・協力を推進していく。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
市民一人当たりの年間貸出冊数		3.76 冊	3.80 冊

事業名	図書館まつり開催事業	担当課	図書館課
取組内容	図書館利用への関心を高め、利用者の増加と読書の推進を図るためのイベント等を実施する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
図書館まつり参加者数		2,990 人	3,160 人

基本目標 5 家庭や地域で健やかな子どもを育むための取組の推進

施策 1 家庭教育の支援

家庭・地域の絆づくりの一層の推進のため、埼玉県家庭教育アドバイザー及び地域の子育て支援に携わる市民と連携し、家庭の教育力と地域の教育力の向上を図ります。

事業名	家庭の学びと地域の絆推進事業	担当課	生涯学習課
取組内容	家庭の教育力の向上を図るために、親の学習講座や家庭教育学級の、就学児健康診断時での実施を支援する。また、子どもと親の育ちの学びの機会の充実を図るために、コミュニティセンターや文化・学習センター等において未就学児の保護者を対象に家庭教育学級等を開催する。 埼玉県家庭教育アドバイザーや地域で子育てを支援する団体等と連携し、家庭教育学級等の開催をする。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
親の学習講座、家庭教育学級等への延べ参加者数		965 人	1,500 人

施策2 青少年の健全育成

地域でこどもを育てる気運の醸成と地域の教育力の向上を図るため、各地域で活動する青少年健全育成団体の活動を支援し、地域と一体となって健やかなこどもを育む取組を推進します。

事業名	青少年健全育成事業	担当課	生涯学習課
取組内容	青少年の健全な発達および地域の教育力向上を図るため、青少年関係団体の活動を支援し、協働で事業を行う。市立の小中学校、県立騎西特別支援学校及び開智未来中学校代表者により少年の主張大会を開催する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
少年の主張、講演会の観客来場人数		330人	400人

事業名	二十歳の集い開催事業	担当課	生涯学習課
取組内容	青少年健全育成の一環として二十歳という節目の年齢を祝い、市民としての意識や郷土愛の高揚を図るとともに、成人としての自覚を促すために、二十歳の集い実行委員会と協働で「二十歳の集い」を開催する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
二十歳の集い出席率		77%	85%

施策3 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

学校の一層の活性化と家庭や地域の教育力の向上を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が一体となったこどもの健全育成に努め、地域密着型の教育を推進します。

事業名	あいさつふれあい推進事業	担当課	学校教育課
取組内容	教育機関、地域、行政機関等が一体となった市を挙げた「加須市あいさつ運動～あいさつ さわやか かぞのまち～」を推進する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
自分からあいさつをしている児童生徒の割合		81.2%	90.0%

事業名	こどもの居場所づくり事業	担当課	子育て支援課
取組内容	放課後や週末等に、小学校やコミュニティセンター等の施設を活用してこどもの安心・安全な活動場所を確保し、地域住民の参画を得て、こどもに学びや様々な体験・交流の機会を提供する。 また、市立児童館等において、地域におけるこどもの健全育成と子育てを支援する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
放課後子ども教室を実施する市内の小学校数		5校	11校

事業名	かぞ子ども大学事業	担当課	子育て支援課
取組内容	こどもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域でこどもを育てる仕組みをつくるため、大学や民間施設等を会場とした、こどもの知的好奇心を刺激する講義や体験活動を行う。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
子ども大学かぞ参加者数		36人	35人(定員)

施策4 人権教育の推進

学校、家庭、地域、企業等も含めた市民総ぐるみの協働により、あらゆる場・機会を通じて、同和問題をはじめとする人権にかかわる様々な問題を対象とした人権教育、啓発活動を行い、市民一人ひとりが人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚を身につけることができるように努めます。

市民一人ひとりが相手を思いやる気持ちを持った、差別や偏見のない住みよい社会を実現するために、多様な場での学習機会を通じて、人権問題の解決に向けた人権教育を推進します。

事業名	人権教育推進事業	担当課	生涯学習課
取組内容	市民が人権感覚を身につけ、さまざまな人権問題の解決に資することができるように、各種研修会や講演会を実施する。		
指 標 名		現状値(R6)	目標値(R12)
人権教育推進事業への延べ参加者数		2,834人	3,000人

第7章 計画の推進・進行管理体制

1 計画の推進体制

「生涯学習」の意味は広範であり、その取組は生涯学習課にとどまらず様々な部署に関係します。本計画を効果的に実行していくためには、教育委員会のみならず、庁内の枠組みを超えた連携・協力を努める必要があります。

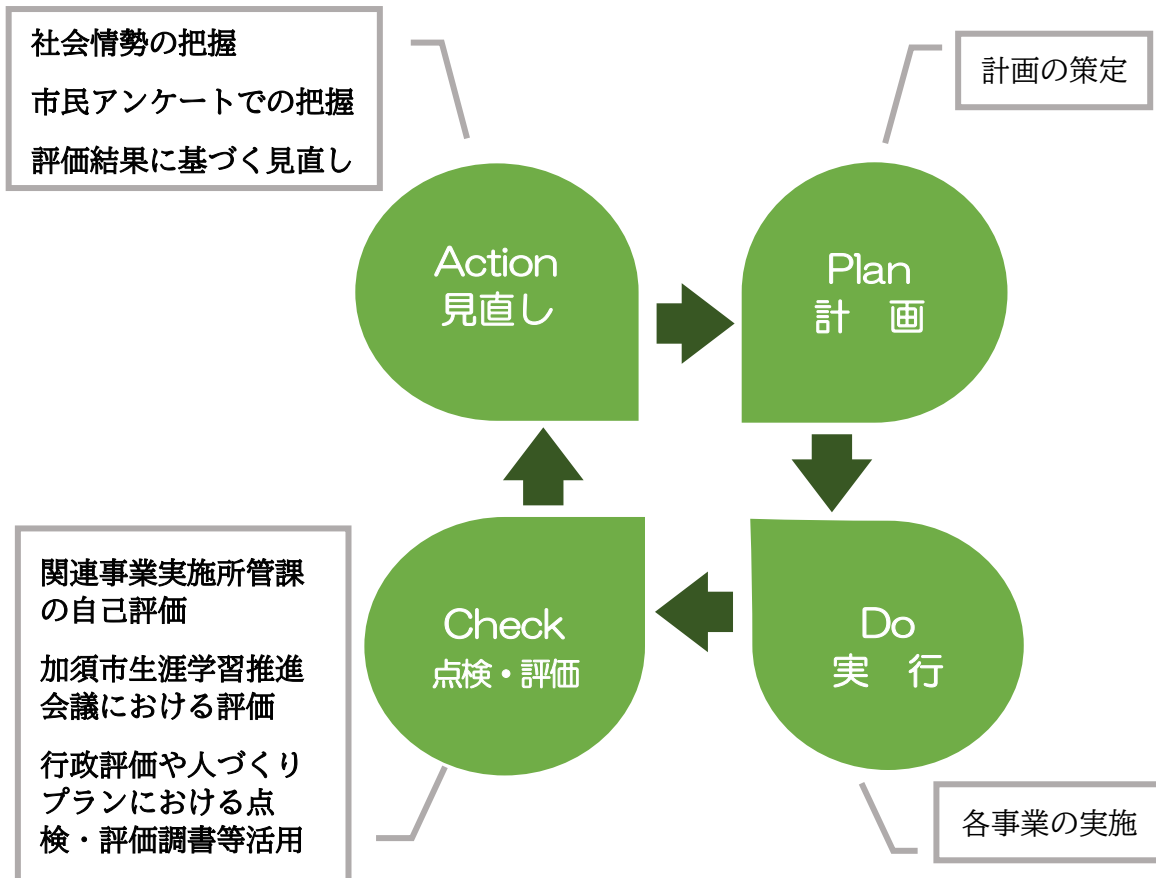
また、本計画の推進のため様々な取組を実施し、学習の主体となる市民や、学習提供者であるクラブ・サークル団体、地域、学校、関係部署など生涯学習に関わる全ての主体との連携を図り計画を推進します。

2 計画の進行管理体制

計画を推進するに当たり、計画（PLAN）→実行（DO）→評価（CHECK）→見直し（ACTION）という「加須やぐるまマネジメントサイクル」の考え方を踏まえ、事業の実施結果を評価します。

本計画では、施策ごとに指標を設定し、その評価を踏まえ、毎年度、加須市生涯学習推進会議において計画の進捗状況を検証します。

その際、達成状況に至った要因を分析し、次年度の取組に向けてその改善策を明らかにします。



第4次加須市生涯学習推進計画

令和8年3月発行

発行 加須市教育委員会

編集 生涯学習部 生涯学習課

〒347-0006 加須市上三俣2255番地

電話 0480-62-1223